本当に大切なのは

宝塚市立御殿山中学校 二年 中島美代

私の学校には障害を持った子が数人います。これは私と、その障害を持ったある子のお話です。

ある日、体育の授業でラジオ体操のテストがありました。それはグループでのテストで、全員が規定通りに動かなければ合格できないというものでした。もちろん理解力があり、運動神経の良い子と組むことができれば早く合格することができ、成績も良くなる可能性も高まります。その班決めで、私は障害を持った子と同じ班になりました。初めはそれが私にとってプラスにならないのではないかと思っていました。なぜなら彼女と話したこともあまりなく、接し方が分からなかったからです。リズムが違う、出す足が違う、細かいことを言い出すと彼女の動きは、とても満足のいくものとは言えませんでした。他の班が合格できても合格できないあせり。私はなかなか良い方向に考えられなくなっていきました。

その時はまだ、私にとっての彼女は「障害」を持つ同級生という存在でした。「障害」これは私にとつて彼女への態度をおおいに悩ませるものでした。障害を持つているのだから少しぐらい出来ていなくてもしかたがない、つい出来ていない部分でも大目に見て「出来ているよ。」と言ってしまふことが増えていました。もちろんその動きで簡単に合格することはできず、失敗してしまつた彼女へかける言葉もままなりませんでした。

ところがある日、彼女は前の授業より急に上達していました。「練習したの？」と聞くと、彼女は「うん」と答えました。そして「とても熱心に教えてくれたから。」と付け加えました。私は涙が出るほど嬉しかったのと同時に、障害を持つているということにとらわれすぎて、逆に差別をしてしまつていたのではないかとも思いました。そして、彼女は私を友達として見てくれているのに、私は彼女を友達としては見られていなかったことをひどく反省しました。そしてそれ以降は障害を持つていることにとらわれず彼女を一人の友達として、自然に話すようにしていきました。

すると、彼女の私に対する態度も、私が彼女に対する態度をフレンドリーにしたのと同時にフレンドリーになっていきました。反応も前より強くて大きいものになってきたように感じました。そんな時、彼女個人の動きが良くなってきているということを先生からおっしゃって頂きました。

それは私のことではないのに、とても嬉しくて飛び上がりそうな気持ちになりました。きつとそれは、彼女と共に一生懸命に練習をして、テストを受けていくなかでお互いに成長できたからこそその結果だと思えます。

結局、ラジオ体操のテストで私達は合格することができませんでした。でも、他の子と組んで早くテストに合格できていたとしても、この自分以外の人のことを想って行動するという、テストよりもっと大切なことを見いだすことはできなかったと思

ます。

ですから私は今、彼女と一緒にの班になれたことはすごく自分にとってプラスになったのではないかと思っています。彼女は私に人を思いやることの大切さや、その意義それによって感じることでできる温かい気持ちや嬉しい気持ちを教えてくれました。この、彼女と過ごした時間には沢山の大切なことがつまっていて、それは勉強などでは得られない、生身の人間と接することだけで味わえる温かい気持ちです。

障害を持つていることは一つのハンデなのかもしれませんが、彼女には、彼女にしかない素晴らしさがあります。それは友達として接したからこそ気付けたことでもあります。人間はだれもが長所と短所を持っています。世の中の人々が皆そうであることを理解して、だれに対しても同じような目線で考えていくことが、彼女のように障害を持つ人達に対して、一番大切なことなのではないかと思えます。

私達は他人の心の中を見ることはできません。でも想像することはできます。今、相手がどんな気持ちなのか、何を考えているのか、そうやって考えて人を想う気持ちこそが人権を大切にすることなのだと思います。そして、人権を大切にするとすることは自分を、そして相手を成長させてくれるものなのだろうと深く思いました。